

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	機能再建・再生科学領域脊椎脊髄病態修復学教育研究分野 大石和生
指導教授氏名	石橋 恭之
論文審査担当者	主 査 佐々木 賀広 副 査 水上 浩哉、 漆館 聡志
<p>(論文題目)</p> <p>The Knee injury and Osteoarthritis Outcome Score reflects the severity of knee osteoarthritis better than the revised Knee Society Score in a general Japanese population. (日本人の一般地域住民において Knee Injury and Osteoarthritis Outcome Score は改訂版 Knee Society Score よりも変形性膝関節症の重症度を反映する)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>963 人（男性 368 名、女性 595 名）の一般住民を対象とし、変形性膝関節症(KOA)の治療効果判定指標である KSS2011 と KOOS が、年齢、性別、KOA の重症度(KLG)、 BMI 等の独立変数にどのように依存するかを評価し、2つの指標の特徴を対比的に明らかにしている。</p> <p>KOA の有病率は男性 27%、女性 50%であった。KSS2011、KOOS とともに年齢と共に低下する傾向が見られたが、この傾向は KOOS において著明であった。性別に関しては、KSS2011 では各年齢層で有意差を認めなかったのに対し、KOOS では 50 代以上の全年齢層で女性が有意に低値を示した。KSS2011、KOOS とともに KLG とともに低下する傾向がみられたが、この傾向は KOOS において著明であり、初期病変の検出感度が高いことが示された。また、KSS2011、KOOS を従属変数とした重回帰分析では、各評価方法の合計点に関連する因子は、KSS2011 では年齢($\beta=-0.16$, $p<0.001$)と KLG($\beta=-0.13$, $p=0.001$)、KOOS では性別($\beta=-0.07$, $p=0.024$)、年齢($\beta=-0.08$, $p=0.020$)、BMI($\beta=-0.14$, $p<0.001$)、KLG($\beta=-0.42$, $p<0.001$)であった。</p> <p>以上より、KOOS は KSS2011 と比較して、年齢および KLG に強い相関を示すことが明らかとなり、一般住民における KOA の初期変化の推定には KOOS の方が適切であると結んでいる。</p> <p>本研究は KSS2011 と KOOS を用いて一般住民の膝愁訴を評価し、それぞれの変動要因を分析した初めての研究であり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	The knee (2015), http://dx.doi.org/10.1016/j.knee2015.08.011